

科目名	SS 課題研究 I		必履修	使用教材	課題研究メソッド 2nd Edition (啓林館) 論理トレーニング 101 題 (産業図書) 研究ノート (コクヨ)
学年 学級	1 年普通科全クラス	単位数	1	教科 担当	大坪、菅原、大野新、佐藤慎、野口、山田、武内、村上、乙部、工藤、外山、川人、万田、大澤、長谷川、佐藤義

期 間	授 業 計 画	到達目標
I 期 (4 月 ~10 月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究とは何か・課題研究の意義・自己紹介プレゼン</li> <li>・講演会・課題研究のメソッド</li> <li>・ミニ探究 (テーマ設定)</li> <li>・ゼミの選択、決定</li> <li>・研究計画の立案</li> <li>・校内発表会での発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の基本的な考え方を講義・ワークショップ・講演等にて習得する。</li> <li>・自身が行ったミニ探究をまとめて、発表することを通し、表現力を身につける。</li> <li>・交流会やゼミの説明会を通して、自分の興味・関心を認識する。</li> </ul>
II 期 (10 月 ~3 月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミ活動</li> <li>・研究テーマの見直し、再設定</li> <li>・研究計画の見直し、再立案</li> <li>・先行研究、資料収集</li> <li>・仮説を立証するための実験・観察・調査等の実施</li> <li>・考察・まとめ</li> <li>・校内発表会での発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミでの活動や他者との交流を通して、テーマを設定する。その過程で先行研究や資料の収集を行う。</li> <li>・先行研究を複数読み込み、研究計画に必要な事項を押さえる。</li> <li>・自身の立てた仮説を立証するための適切な研究計画を立てる。</li> <li>・計画的に実験・観察・調査等を複数回行い、ノート等に記録をつける。</li> <li>・考察・まとめを通して、新たな気づきや研究計画を立てる。</li> <li>・まとめたことをスライドや論文等に表現し、他者に発表する。</li> <li>・発表を通し、表現力を身につける。</li> </ul>

<p>学習のポイント (授業中や家庭学習の方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な事象は相互に関係している。講演会や体験活動、普段の授業、行事への取組、ニュース等を自分の中で関連付け、多面的・多角的な視点を養う。</li> <li>・課題研究の意義を理解するとともに、自身の疑問や興味関心をふまえ、テーマ設定を行う。</li> <li>・地道な知的活動の必要性を理解し、文献調査、資料収集等、日々の積み上げを行う。</li> <li>・調査結果、考察内容、他者の意見等を研究ノートに記録し、探究を通じての自己認識の変容を確認する。</li> <li>・校内発表会や外部コンテストなどを見据え、研究計画を立案し、実行する。</li> <li>・振り返りを通してテーマや研究計画の見直しを行い、自己認識を深める。</li> <li>・プレゼンテーションやポスターセッションを効果的に行うための表現力を身につける。</li> <li>・論理トレーニングに取り組み、正しく読み、伝える力を身につける。</li> </ul>
--

ルーブリック評価					
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
立高生として育成したい資質・能力（各教科）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能</li> <li>・情報活用力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見・解決力</li> <li>・情報発信力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く取り組む力</li> <li>・研究倫理</li> </ul>		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に必要な基本的な知識・技能が何かを理解し、身につけている。</li> <li>・自身の課題や目的に合わせて情報収集・活用をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の、あるいは社会的・学問的問題を発見し、論理的・科学的に解決しようとしている。</li> <li>・自らの知見を適切に他者に説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く、何度も調査・観測等を行い、必要に応じて計画の変更を行っている。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解し、それに基づいて行動している。</li> </ul>		
A	立高生として目指す目標	レベル4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識及び技能を系統的かつ高度に身に付け、応用することができる。</li> <li>・課題や目的に応じ、必要な情報を収集し、高度に分析し、応用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の知識・興味・関心に基づき、現存する事柄を振り返ったり、関連付けたり、比較したりすることによって疑問・課題を発見し、幅広い先行研究等の情報を基に、疑問・課題を解決するための方法を考え、実行し、改善した上で次なる方法を考えることにより解決へ向かうことができる。</li> <li>・正しく伝えるために全体の構造を論理的に考え、文章・ポスター・動画等、様々な場面に合わせて、適切に表現・発信ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究の意義を理解し、あきらめず、粘り強く取り組む大切さを理解し、自らの行動を振り返り、改善していくことがいつもできる。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解し、それに基づき、常に行動し、研究倫理に反する他者の行動に対して適切に助言できる。</li> </ul>
B	立高生として求める標準	レベル3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識及び技能を系統的に身に付け、活用することができる。</li> <li>・情報を適切に処理し、活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の知識や興味・関心に基づき、過去の事例等を参考にして自身の課題を設定し、課題を解決するための方法を自身が収集した情報を基に考え、実行し、改善した上で解決へ向かうことができる。</li> <li>・正しく伝えるために全体の構造を考え、文章・ポスター・動画等、場面に合わせて発信ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめず、粘り強く取り組む大切さを理解し、自らの行動を振り返り、改善していくことが、しばしばできる。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解し、それに基づき、行動することがしばしばできる。</li> </ul>
		レベル2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識及び技能を身に付けている。</li> <li>・情報を目的に応じて整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心に基づき、過去の事例等を参考にして自身の課題を設定し、課題を解決するための方法を考え、実行し、解決へ向かうことができる。</li> <li>・正しく伝えるために全体の構造を考え、文章・ポスター・動画等、場面に合わせて表現ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめず、粘り強く取り組む大切さを理解し、自らの行動を振り返り、改善していくことが時々できる。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解し、それに基づいた行動をとることが時々できる。</li> </ul>
C	立高生としての段階	レベル1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識及び技能を理解している。</li> <li>・情報を収集することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心に基づき、過去の事例等を参考にして課題を解決するための方法を調べることができる。</li> <li>・伝えるべき内容を、文章・ポスター・動画等、場面に合わせて表現する方法を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめず、粘り強く取り組む大切さを理解している。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解している。</li> </ul>
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック（自己／他者）</li> <li>・成果物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック（自己／他者）</li> <li>・成果物</li> <li>・観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック（自己／他者）</li> <li>・成果物</li> <li>・観察</li> </ul>	
観点別評価		実施しない（5～1の成績評価は行わない）			

科目名	SS 課題研究 II		必修	使用教材	課題研究メソッド 2nd Edition (啓林館) 論理トレーニング 101 題 (産業図書) 研究ノート (コクヨ)
学年 学級	2 学年	単位数	1 単位	教科 担当	石井佐、津野田、武藤、梅澤、中山、岡 戸、山口、藤原、木村、山崎

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 年次の研究の総括</li> <li>・ 11 分野のゼミ講座 (全員いずれかのゼミに属す)</li> <li>各ゼミにおいて実験、実習、フィールドワークを実施</li> <li>・ 担当教員との面談</li> <li>・ 研究テーマの設定</li> <li>・ 研究活動計画書の作成</li> <li>・ 研究活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りにより現象を多面的に見る視野を持つ。</li> <li>・ 自己の研究テーマや研究計画の見直しを行い、再設定する。</li> <li>・ ゼミ内発表等を通して、自身の研究に対する理解を深める。</li> </ul>
2 学 期	期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動報告及び中間報告</li> <li>・ 新たな課題への取り組み</li> <li>・ 先行研究、参考文献、資料収集を行う。</li> <li>・ 深化のための活動計画</li> <li>・ 体験活動などを通して、多面的・多角的な視点を養う。</li> <li>・ レポートのまとめ</li> <li>・ 研究結果のポスター化</li> <li>・ 外部発表ポスター発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現時点での探究活動のデータのまとめ中間発表をする。</li> <li>・ 外部発表ポスター発表の経験から発信力を身につける。</li> <li>・ 校内発表会や外部での発表会、コンテストなどを見据え、研究計画を見直し、再設定する。</li> <li>・ 先行研究、参考文献、資料収集、考察の経過を「研究ノート」に記録する。</li> </ul>
3 学 期	学年末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部発表ポスターの再考・完成</li> <li>・ 研究要綱の執筆</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポスター発表、外部の人とのセッションを通して、研究を深化させるとともに、表現力を身につける。</li> <li>・ 経年保存され、参照される研究要綱を、定められたルールに沿って適切に作成する。</li> </ul>

<p>学習のポイント (授業中や家庭学習の方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な事象は相互に関係している。講演会や体験活動、普段の授業、行事への取組、ニュース等を自分の中で関連付け、多面的・多角的な視点を養う。</li> <li>・ 課題研究の意義を理解するとともに、自身の疑問や興味関心をふまえ、テーマ設定を行う。</li> <li>・ 地道な知的活動の必要性を理解し、文献調査、資料収集等、日々の積み上げを行う。</li> <li>・ 調査結果、考察内容、他者の意見等を研究ノートに記録し、探究を通じての自己認識の変容を確認する。</li> <li>・ 校内発表会や外部コンテストなどを見据え、研究計画を立案し、実行する。</li> <li>・ 振り返りを通してテーマや研究計画の見直しを行い、自己認識を深める。</li> <li>・ プレゼンテーションやポスターセッションを効果的に行うための表現力を身につける。</li> <li>・ 論理トレーニングに取り組み、正しく読み、伝える力を身につける。</li> </ul>
--

ルーブリック評価				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
立高生として育成したい資質・能力（各教科）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能</li> <li>・情報活用力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見・解決力</li> <li>・情報発信力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く取り組む力</li> <li>・研究倫理</li> </ul>	
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に必要な基本的な知識・技能が何かを理解し、身につけている。</li> <li>・自身の課題や目的に合わせて情報収集・活用をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の、あるいは社会的・学問的問題を発見し、論理的・科学的に解決しようとしている。</li> <li>・自らの知見を適切に他者に説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く、何度も調査・観測等を行い、必要に応じて計画の変更を行っている。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解し、それに基づいて行動している。</li> </ul>	
A	立高生として目指す目標 レベル4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識及び技能を系統的かつ高度に身に付け、応用することができる。</li> <li>・課題や目的に応じ、必要な情報を収集し、高度に分析し、応用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既有的知識・興味・関心に基づき、現存する事柄を振り返ったり、関連付けたり、比較したりすることによって疑問・課題を発見し、幅広い先行研究等の情報を基に、疑問・課題を解決するための方法を考え、実行し、改善した上で次なる方法を考えることにより解決へ向かうことができる。</li> <li>・正しく伝えるために全体の構造を論理的に考え、文章・ポスター・動画等、様々な場面に合わせて、適切に表現・発信ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究の意義を理解し、あきらめず、粘り強く取り組む大切さを理解し、自らの行動を振り返り、改善していくことがいつでもできる。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解し、それに基づき、常に行動し、研究倫理に反する他者の行動に対して適切に助言できる。</li> </ul>
B	立高生として求める標準 レベル3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識及び技能を系統的に身に付け、活用することができる。</li> <li>・情報を適切に処理し、活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既有的知識や興味・関心に基づき、過去の事例等を参考にして自身の課題を設定し、課題を解決するための方法を自身が収集した情報を基に考え、実行し、改善した上で解決へ向かうことができる。</li> <li>・正しく伝えるために全体の構造を考え、文章・ポスター・動画等、場面に合わせて発信ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめず、粘り強く取り組む大切さを理解し、自らの行動を振り返り、改善していくことが、しばしばできる。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解し、それに基づき、行動することがしばしばできる。</li> </ul>
	レベル2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識及び技能を身に付けている。</li> <li>・情報を目的に応じて整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心に基づき、過去の事例等を参考にして自身の課題を設定し、課題を解決するための方法を考え、実行し、解決へ向かうことができる。</li> <li>・正しく伝えるために全体の構造を考え、文章・ポスター・動画等、場面に合わせて表現ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめず、粘り強く取り組む大切さを理解し、自らの行動を振り返り、改善していくことが時々できる。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解し、それに基づいた行動をとることが時々できる。</li> </ul>
C	立高生として初歩的段階 レベル1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本的な知識及び技能を理解している。</li> <li>・情報を収集することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心に基づき、過去の事例等を参考にして課題を解決するための方法を調べることができる。</li> <li>・伝えるべき内容を、文章・ポスター・動画等、場面に合わせて表現する方法を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきらめず、粘り強く取り組む大切さを理解している。</li> <li>・研究倫理の重要性を理解している。</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック（自己／他者）</li> <li>・成果物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック（自己／他者）</li> <li>・成果物</li> <li>・観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック（自己／他者）</li> <li>・成果物</li> <li>・観察</li> </ul>	
観点別評価	実施しない（5～1の成績評価は行わない）			